

鳴門教育大学附属幼稚園

学校関係者評価報告書

(平成24年度)

平成25年3月

学校関係者評価委員会

## 目 次

### 学校関係者評価委員会が実施した学校評価について

はじめに	1
I 学校関係者評価結果	3
II 評価項目ごとの評価	5
1 教育課程・指導	5
2 保健管理	5
3 安全管理	5
4 組織運営	6
5 研修（資質向上の取組）	6
6 保護者・地域住民との連携	6
7 教育環境整備	7
8 教育実習	7
9 センターの役割	7
参考：学校の現況及び目的	8

## 学校関係者評価委員会が実施した学校評価について

### はじめに

本報告書は、学校評議員、大学教員、附属学校部会の組織体として連関する附属小学校の前校長、保護者等の学校関係者で構成された鳴門教育大学附属幼稚園学校関係者評価委員会が、附属幼稚園の教育・研究活動の観察及び園長をはじめとする教職員との意見交換等を通じて、同園の自己評価結果について概評することを基本に学校関係者評価を実施し、その結果を取りまとめたものである。

### 1 評価の目的

学校評価は、次の3つを目的として実施するものである。

- ① 学校が、自らの教育活動その他の学校運営について目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること。
- ② 学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
- ③ 学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講ずることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

### 2 評価のスケジュール

平成 24 年 7 月 第 1 回学校関係者評価委員会（委員長の選出、評価項目ごとの評価担当者の決定、今後の予定等）

平成 24 年 9 月 学校関係者評価委員による施設見学、保育・園行事の参観及び教職員  
～ 25 年 2 月 との意見交換（ペアレンツセミナー、運動会、園外保育、幼児教育研究会、表現会等）

平成 25 年 3 月 第 2 回学校関係者評価委員会（自己評価結果及び改善方策等に関する説明を受けての学校関係者評価の実施と評価報告書の作成等）

### 3 学校関係者評価委員会委員（平成25年3月現在）

- 大宮 俊恵：徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部准教授  
前鳴門教育大学附属小学校校長
- 木下 光二：鳴門教育大学大学院教授
- 須見 高康：鳴門教育大学附属幼稚園みどり会会長
- 田村 隆宏：鳴門教育大学大学院教授

（50 音順，○は委員長）

## 4 本評価報告書の内容

### (1) 「Ⅰ 学校関係者評価結果」

「Ⅰ 学校関係者評価結果」では、「Ⅱ 評価項目ごとの評価」において、評価項目 1 から 8 のすべての評価項目の内容を総合的に判断し、4段階評価で記述した。

{ 4段階評価の基準 }

- A 十分達成されている
- B 達成されている
- C 取り組まれているが、成果が十分でない
- D 取組が不十分である

また、学校の目的に照らして、「主な優れた点」、「主な改善を要する点」を抽出し、上記結果と併記した。

### (2) 「Ⅱ 評価項目ごとの評価」

「Ⅱ 評価項目ごとの評価」では、評価項目 1 から 8 において、当該評価項目が達成されているかどうかの「評価結果」（4段階評価）及びその「評価結果の根拠・理由」を記述した。加えて、取組が優れていると判断した場合や、改善の必要があると判断した場合には、それらを「優れた点」及び「改善を要する点」として、それぞれの評価項目ごとに併記した。

### (3) 「参考」

「参考」では、自己評価書に掲載されている「Ⅰ学校の現況及び目的」を転載した。

## 5 本評価報告書の公表

本報告書は鳴門教育大学に提供するとともに、設置者に提出する。また、ウェブページ (<http://www.kinsch.naruto-u.ac.jp>) への掲載を通じて、広く社会に公表する。

## I 学校関係者評価結果

鳴門教育大学附属幼稚園の学校関係者評価は内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

主な優れた点について、以下に列挙する。

○「1 教育課程・指導」において、幼稚園教育要領改訂の構想を具現化した「生活プラン」に基づきつつ、今年度は特に科学的思考を促す幼小接続教育課程作成に向けて、数量感覚やかかわる力の育成の観点から現行の教育課程・指導計画が見直されている。その結果、5歳児Ⅱ期からを小学校への接続期として設定され、数量感覚やかかわる力が育っている姿が明示され、その具体的実践場面を、昨年度から開発されているデータベース（遊誘財データベース）に組み込むとともに、そこから得られた成果を「研究紀要第46集」にまとめた。

また、保育の質をさらに高める手立てとして、保育実践の記録と事例収集、並びに本園独自の「保育の計画と記録」及び教員個々が作成・利用している保育記録やコンピュータによるデータ記録を併用し、保育実践にかかる記録や週案等を作成する手立てとし、指導計画の修正と作成をめざしていることから、極めて優れた取り組みであると判断できる。

○「2 保健管理」において、経験豊かな養護教諭を中心として、指導計画に基づいて保健指導を実施し、職員会において毎月の指導計画を見直し、幼児や園の実態に応じて改定している。また、インフルエンザ、ノロウィルス等の感染症に対して速やか、かつ適切に対応がとれるための学校保健計画が綿密に策定されており、万全な保健管理体制がとられていることから、極めて優れていると判断できる。

○「5 研修（資質向上の取り組み）」において、教員が園内研究会、合同研究会で積極的に事例研究、カンファレンスが重ねられ、今年度の研究テーマである科学的思考の育成に関わる保育のあり方、小学校への接続のあり方が探求される中で、保育者としてのレベルの高い資質向上に務めている。さらに、各教員が県内外の多数の研修行事等に精力的に参画したり、参加職員による報告会をもつなどして職員全体で現在の幼児教育に関する最新の情報を共有したりしていることから、研修は極めて充実していると判断できる。

○「6 保護者・地域住民との関係」において、保護者に対する幼稚園の保育や環境に関するアンケートの結果から、保護者に十分に理解が得られていることが示唆され、望ましい連携がとられていると判断される。

○「8 教育実習」においては、特に教育専門職にふさわしい実践的能力や研究態度を身に付けること等実習のあり方が整えられ、実習前に実習生が子どもと触れ合える機会を増やすといった工夫により、実習生の子ども理解の深まりや、指導する側の教員が実習生の特性を十分に理解することが容易になり、従来以上に質の高い実習が展開された。さらに本年は、実習計画の見直しを図ることで、1日の保育を振り返り反省する時間や、翌日以降の保育計画立案、教材研究などをする時間が十分に確保できたことも高く評価できる。

○「9 センターの役割」において、従来からの研究幼稚園・奉仕幼稚園として、全幼研徳島支部の事務局を本園におき、支部の研修を企画運営（学習会、総会、理事会）している

のをはじめとして、教育講演会の開催、教員の県内外研修会への講演講師の派遣（兵庫県伊丹市・兵庫県姫路市・香川県三豊市・高知県香南市・徳島県徳島市・阿南市・吉野川市・三好郡市幼教研・板野郡幼研など29件）、及び月3、4回の頻度で午前中は保育参観、午後に合同研究会を公開で開催しているなど、極めて優れた取り組みが実施されている。さらに、遊誘財データベースをweb化し、その成果を共有化する試みは保育の質の向上に多大な貢献を果たす取り組みとして注目できる。さらに、2月9日に開催された本園の研究発表会では、県内外から407名の参加者があったことから、幼稚園教育についてや教育の先端的な情報を県内外に広める役割を十分果たしていると言える。

なお、昨年度より講演会や研修会への講師派遣が大幅に増えた要因としては、専任教頭制が実現されたため、講演等の研修支援が行いやすくなったことが大きく影響している。このことから、センター的役割の充実した支援が実現されるためには、人的な環境整備が不可欠であることが強く示唆される。

主な改善を要する点について、以下に列挙する。

○「3 安全管理」においては、危機管理マニュアル（安全管理計画）に基づく安全点検や防災・避難訓練の実施等、事故の未然防止や安全教育の周知を図っていることは評価に値する。また、初期段階ではあるが防災用備蓄品の確保も着手され、もしもの場合に備えた飲料・食料・衛生用品の準備が整いつつある。ただ、管理職や養護教諭が不在時の対応や、地震・津波・火災など様々な場面を想定した避難の仕方など、より多くの訓練を新たに検討する必要があること、また、避難方法が一目でわかる一枚もののマニュアルを作成中であること、さまざまな非常用の備品や備蓄などの保管場所の検討が必要であることなどを重要課題としてあげることができる。

○「4 組織運営」において、教育・研究・教育実習・子育て支援等、園の業務内容はますます肥大化しており、定められた勤務時間の範囲内での遂行は非常に難しい状況にある。職員の労働時間の厳守・縮減、業務内容のスリム化、ノー残業デーの完全実施、休日確保等に課題が残る。専任教頭制が実現するなど昨年度からの改善もあるものの、まだまだ人的環境を充実させることが必要である。設置者である大学による早急なる再検討が必要であると判断される。

○「7 教育環境整備」においては、施設・設備・遊具・用具等の整備は常に意識して実施され、職員の安全に対する意識も高い。また、本年度は、営繕工事として、中棟・北棟各保育室・資料室の空調設備の新設、絵本の部屋の改修、ボイラー関係の撤去並びにボイラー室の改修、遊戯室前のテラスの張り替え、屋外排水設備改修などが行われ、幼稚園としてふさわしい環境が整いつつある。しかし、現在の園舎は、昭和44年に建築されたもので、築45年を経ており、接合部の雨漏り・モルタルの剥落やひび割れ、配管などの老朽化が目立つのも事実であることから、さらなる施設・設備面での改善を必要としている。

## II 評価項目ごとの評価

### 評価項目1 教育課程・指導

【評価結果】 以下の内容を根拠として、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断した。

(評価結果の根拠・理由)

#### 観点1-1 幼稚園教育要領の内容に沿った園児の発達に即した指導の状況

#### 観点1-2 幼小の円滑な接続に関する取り組み状況

教育課程に基づく具体的なねらいや内容、環境の構成、教師の援助などの指導細目及び方法等を著した「生活プラン」に基づき、それを踏まえた上で、昨年度からのテーマである「科学的思考の育成」に沿った年間の指導計画や週案が綿密に作成されており、さらに子ども一人一人の育ちを詳細に記録し、それを踏まえて日々の保育実践構築に結びつけられている点で極めて優れた取り組みであると判断される。

### 評価項目2 保健管理

【評価結果】 以下の内容を根拠として、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断した。

(評価結果の根拠・理由)

#### 観点2 保健計画の作成・実施の状況、園の環境衛生の管理状況

保健に関する指導計画を毎月見直し、幼児の実態に応じた健康診断についての工夫や、月ごとにかかりやすい疾病の予防などについて計画が立てられ、それに沿って保健管理や保健指導を実施されていることから、十分に達成されていると判断された。

### 評価項目3 安全管理

【評価結果】 以下の内容を根拠として、4段階評価中の「B 達成されている」と判断した。

(評価結果の根拠・理由)

#### 観点3 安全管理計画(危機管理マニュアル)の見直し・活用の状況

危機管理マニュアル(安全管理計画)に基づく安全点検や防災・避難訓練の実施等、事故の未然防止や安全教育の周知を図っていることは評価に値する。一方で、管理職や養護教諭が不在時の対応や、地震・津波・火災など様々な場面を想定した避難の仕方など、より多くの訓練を新たに検討する必要があること、また、さまざまな非常用の備品や備蓄などの課題があること、さらには、平成24年度附属幼稚園参観者のアンケートの項目⑨「施設・設備は衛生免や安全管理の配慮ができていましたか」の回答の中に、「C あまりよくない」と回答した参観者が2名いた。自由記述欄が無いため推測でしかないが、本園の構造上、入り組んだ部分が多く幼児の姿が死角になる箇所があることから、このような結果になったのではないかと思われる。構造上の問題ゆえ、園舎の建て直しをはからない限り解決はできないが、教員数を増やすことで死角部分を減らす等の改善が必要である。以上、総合的な見地から、達成されていると判断される。

#### 評価項目4 組織運営

【評価結果】 以下の内容を根拠として、4段階評価中の「B 達成されている」と判断した。

(評価結果の根拠・理由)

##### 観点4 園務分掌や主任制度が適切に機能するなど、園の明確な運営・責任体制の整備の状況

研究部・教育実習部・教務部の3部に編成した運営体制が組織され、3主任を責任者として配置され、それを専任園長と今年度から配置された専任教頭が統括するという園務分掌が定められている。また、週30時間の非常勤講師2名が配置され、園務分掌が図られている。

ただし、園の業務内容はますます肥大化しており、定められた勤務時間の範囲内での遂行は非常に難しく、教職員定数増の要求等によって改善される必要があるものの、教員定数増加の実現については設置者である大学の改善課題であり、本園教職員の努力の範囲外である。上記評価項目3の安全管理及び組織運営の面からも今後、専任教頭制の継続と教員の増加の実現について改善されることが望ましい。

#### 評価項目5 研修(資質向上の取組)

【評価結果】 以下の内容を根拠として、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断した。

(評価結果の根拠・理由)

##### 観点5 園内外における実施及び参加状況

園内研修では、昨年度文部科学省より研究開発学校の指定を受け、「幼小接続の教育課程開発一遊誘財が引き出す科学的思考一」の研究主題のもと、事例研究や保育カンファレンスを園内研究会、あるいは園外各校種の教員の参加を得て合同研究会として定期的に実施しているほか、保育技術のスキル向上のための七宝焼き研修、あやとり研修、リズム表現研修などの多岐にわたる領域の研鑽を積んでいる。さらに、資料5-③「出張一覧」に記載されているような多彩な研修により、幼年発達支援のための専門的理解の深化に努めている。

#### 評価項目6 保護者・地域住民との連携

【評価結果】 以下の内容を根拠として、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断した。

(評価結果の根拠・理由)

##### 観点6 保護者・参観者等を対象とするアンケートの結果

保護者に対して実施された幼稚園の保育や環境をどのように捉えられるかについて調査するアンケートの結果から、保護者に十分に理解が得られていることが示唆され、望ましい連携がとられていると判断された

## 評価項目 7 教育環境整備

【評価結果】 以下の内容を根拠として、4段階評価中の「B 達成されている」と判断した。

(評価結果の根拠・理由)

### 観点 7 設置者と連携した施設設備の安全・維持管理のための整備の状況

施設・設備・遊具・用具等の整備は常に意識して実施され、職員の安全に対する意識も高い。また、本年度は、営繕工事として、中棟・北棟各保育室・資料室の空調設備の新設、絵本の部屋の改修、ボイラー関係の撤去並びにボイラー室の改修、遊戯室前のテラスの張り替え、屋外排水設備改修などが行われ、幼稚園の環境としてふさわしい環境が整いつつある。しかし、現在の園舎は、昭和44年に建築されたもので、築45年を経ており、接合部の雨漏り・モルタルの剥落やひび割れ、配管などの老朽化が目立つのも事実であることから、さらなる施設・設備面での改善を必要としている。

## 評価項目 8 教育実習

【評価結果】 以下の内容を根拠として、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断した。

(評価結果の根拠・理由)

### 観点 8 専門性や実践力を養う教育実習の実施状況

教育専門職にふさわしい実践的能力や研究態度を身に付けること等実習のあり方が整えられ、実習前に実習生が子どもと触れ合える機会を増やすといった工夫により、実習生の子ども理解の深まりや、指導する側の教員が実習生の特性を十分に理解することが容易になり、従来以上に質の高い実習が展開されている。

## 評価項目 9 センターの役割

【評価結果】 以下の内容を根拠として、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断した。

(評価結果の根拠・理由)

### 観点 9 幼児教育関係者への研修支援、教員派遣等の状況

今年度の具体的な研修支援、教員派遣、研修会会場提供としては、全幼研徳島支部の事務局を本園におき支部の研修を企画運営（学習会、総会、理事会）、教育講演会の開催、教員の県内外研修会への講演講師の派遣（兵庫県伊丹市・兵庫県姫路市・香川県三豊市・高知県香南市・徳島県徳島市・吉野川市・三好郡市幼教研・板野郡幼研など27件）、合同研究会の開催など、幼稚園教育についてや教育の先端的な情報を県内外に広める役割を十分果たしていると判断される。

## 参考

### I 学校の現況及び目的

#### 1 現況

- (1) 学校名 鳴門教育大学附属幼稚園
- (2) 所在地 徳島市南前川町2丁目11番地の1
- (3) 学級等の構成  
3歳児1学級, 4歳児2学級, 5歳児2学級  
保育課程 2年保育, 3年保育
- (4) 幼児数及び教員数(平成24年5月1日)  
幼児数137人 教員数9人(正規教員)

#### 2 目的

##### (1) 目的・使命

本園の目的は、附属幼稚園園則第1条において「義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長する」と定めるとともに、同条第2項では「幼児期の教育に関する各般の問題につき、保護者及び地域住民その他関係者からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行うなど、家庭及び地域における幼児期の教育の支援に努める」と定めている。

また、園則第1条には「鳴門教育大学における幼児の保育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の教育実習等の実施に当たることを目的とする。」と定めており、具体的には教員養成大学の附属幼稚園として、次のような使命をもった幼稚園でもある。

- ①大学と一体となって、教育の理論及び実践に関する科学研究を行う研究幼稚園としての使命
- ②地域の教育課題の解明、参観者への指導・助言、文部科学省・県教委・地教委等からの要請による教員派遣など、教育界の発展に寄与する使命
- ③鳴門教育大学の学部学生及び大学院生の教育実習等を行う使命

##### (2) 教育目標

本園は、園則第1条に示されている幼稚園教育の目的の達成のため、次のような教育目標を掲げている。

- ①自主・自立・創造・感謝の精神の芽生えを養うこと。
- ②健康でたくましい心身を養うこと。
- ③それぞれのよさや違いを認め、育ち合う感性を養うこと。
- ④身近な環境に対する興味や思考力の芽生えを養うこと。
- ⑤喜んで話したり聞いたりする態度や言葉に対する感覚を養うこと。
- ⑥創作的表現に対する興味や豊かな感性を養うこと。

##### (3) めざす子ども像

本園は、教育目標に基づき、次のように「めざす子ども像」を明確に示している。

- たくましい子ども

○しなやかな子ども

○育ちあう子ども

#### (4) 平成24年度重点目標

鳴門教育大学・附属学校との連携をさらに密にし，中期目標・中期計画・本年度計画等の実現に努めながら，次の4点から教育目標の具現化を図る。

- ①幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた幼稚園教育の具現化を図る。
- ②「遊誘財」研究を推進するとともに，幼小接続のための教育課程開発に取り組む。
- ③専門性や実践力を養う実地教育の充実に取り組む
- ④地域の幼児教育のセンター的役割を果たす。

#### (5) 評価項目

##### ①教育課程・指導

- ・幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導の状況
- ・幼小の円滑な接続に関する取り組み状況

##### ②保健管理

- ・保健計画の作成・実施の状況

##### ③安全管理

- ・危機管理マニュアル等の作成・活用の状況

##### ④組織運営

- ・園務分掌が適切に機能するなど，明確な運営・責任体制の整備の状況

##### ⑤研修

- ・園内外における研修の実施及び参加状況

##### ⑥保護者・地域住民との連携

- ・保護者・参観者等を対象とするアンケートの結果

##### ⑦教育環境整備

- ・設置者と連携した施設設備の安全・維持管理のための整備の状況

##### ⑧教育実習

- ・専門性や実践力を養う教育実習の実施状況

##### ⑨センター的役割

- ・幼児教育関係者への研修支援，教員派遣等の状況